

## 職員4人が成人を迎える

当JAの職員のうち、令和3年4月に入組した4人が成人を迎えました。1月10日(火)に新成人お祝式がJA秋田なまはげ会館で開かれ、役員が4人の成人を祝いました。

佐藤広美組合長は「若さあふれる柔軟な発想を持ち、未来を切り拓いてほしい。これからの人生が、実り多く順風満帆なものになるように願っている」と激励しました。

4人は「支店の力になれるように頑張りたい」「周りの人を支えられるように努力したい」「組合員にもっと貢献できるように様々なことに挑戦したい」「資格の取得に力を入れたい」などと話し、今後の人生や仕事への気を引き締めました。

新成人の職員



## 豊作や安全を願い蔵開き

1月11日(水)、令和5年の蔵開きが追分低温倉庫で行われました。役員17人が参加し、今年産の農産物の収量や価格の向上、集出荷作業の安全や農業経営の安定化などを祈願して、神棚の前で手を合わせました。

佐藤広美組合長は「昨年は天候不順による収量の減少や資材価格の高騰などが、農業経営に大きく影響した。今年は昨年より豊作になることや米価が上がることを、農産物検査や倉庫業務が円滑に進み事故が発生しない年になることなどを祈っている」と話しました。

当JAは今年も安全かつ適切な集出荷作業に努め、農産物の安定供給に尽くします。

豊作などを祈って手を合わせる役員



## NEWS & TOPICS

### 倉庫の効率的運用に向けた検討会

1月12日(木)、農業用倉庫や集出荷施設などの運営のさらなる効率化を目指した検討会が、JA秋田なまはげ会館で行われました。物流コストの増加や農業用倉庫が逼迫している状況が続くなか、効率的な集出荷体制を確立して農業生産基盤を強化するためにJA全農あきたと意見を交わしました。

JA全農あきたからは統一規格のフレコンとパレットによる輸送体系や、各JAの農業関連施設の使用状況を調査した結果などが説明されました。当JAは生産者からの米の集荷方法や保管状況、倉庫の収容能力などを話し、農産物の集出荷や保管にかかる問題点を共有しました。

農産物の集出荷にかかる問題を話し合いました



### 5年産大豆の品質向上への資材検討会

1月17日(火)、令和5年産の大豆に使用する資材の検討会が、秋田県JAビルで開かれました。管内の生産者約50名が参加し、農業用資材メーカー6社から、除草剤の耕起前散布用の資材や土壌処理除草剤、液肥や紫斑病に効く殺菌剤など、雑草や病害虫への対策、収量の増加などに効果的な資材を学びました。メーカー各社は散布試験の結果や実際の防除作業の映像などを交えながら、商品の特長や高い効果を発揮するための使用方法などを解説しました。

参加者からは、使用量による効果の違いや薬剤が付着した葉への影響、使用適期などの質問がありました。

大豆に効果的な最新資材の特長を学びました

